おおた国際交流センター開館記念講演
新型コロナの経験から学ぶ健康づくり・まちづくり
～国際化の中で知っておきたい感染症知識～
議事要旨

令和４年５月２３日（月）18時～19時15分
おおた国際交流センター
※オンライン同時配信

東邦大学医学部　微生物・感染症学講座　教授
グローバル化推進センター長・医学部地域連携感染制御学講座
講師　舘田　一博　氏

新型コロナウイルス

・2019年12月　中国武漢で原因不明の肺炎が流行し、その原因が新型コロナウイルスであることが報告された。
・現在までに約５億人の感染者、約620万人の死者。まだまだ収束が見込めない状況。

●コロナウイルスの特徴
・スパイク糖蛋白質を介して人の細胞に感染。
・発声・飲食時に排出される「小さな飛沫（マイクロ飛沫）」が感染につながる（エアロゾル感染）。３密によるリスク回避、不織布マスクの使用、換気が重要。

●最近の状況
・感染対策への理解が向上したこと、ワクチン接種率が高くなったことで感染者数の急激な増加は免れていると考えられる。

●空気感染について
・条件によっては、エアロゾル感染が空気感染のような形をとる。「空間を守る（換気の重要性）」ことが重要。

海外からの持ち込みに注意が必要な感染症

・ウイルス（例　デング熱）、原虫（例　マラリア）、細菌（例　腸チフス、結核）には特に注意。
・デング熱、エボラ感染症、ジカウイルス感染症は海外で流行。
・世界中のどこかで小さな流行が起きている＝いつ大きな流行になるか分からないリスクがある。
　⇒病原体を知り、感染ルートを考え、冷静に対応することで、効果的に感染を抑えることが出来る。
　　今回のコロナでは、まさにＧＷ期間中における感染対策の社会実証が出来たと考える。

結核

・日本における外国生まれの結核患者数が増加している。特に若い世代に多い。
・多くの外国人区民が在住する大田区も、検診制度のさらなる充実や医療へのアクセスの改善等、サポートが必要。

おおた国際交流センターを通して望むこと

・羽田空港を有する大田区＝感染症に注意
・感染対策に強い大田区
・国際交流のさらなる活性化を促進する大田区
・外国生まれの方が多い大田区
・外国生まれの方に優しい大田区

⇓

国際交流の実施において、危機管理としての備えが必要
＝ 感染症を知り、適切な感染対策を行う。

・区民の方が、センターを利用し、共に国際交流を推進していくことが重要。

Ｑ＆Ａ

Ｑ：コロナによって見えた世界の文化の違いはありましたか。
お気づきの点がありましたらご紹介ください。

Ａ：マスクの習慣では海外との違いがよく分かった。マスク着用を義務化する国もあったが、日本はほとんどの人がマスクを着け、皆で一緒に協力できるのは良い点。一方、マスクを着けない人に対して、自粛警察というような過剰な動きもあった。日本の文化の強さと弱さが見えた。
最近、マスクに関する新しい提言が出された。屋外で人のいないところであればマスクを外してもよいのではないか等、各自が新型コロナウイルス感染症という感染症を理解して、想像力を働かせながらリスクを回避し、効果的で負担の少ない感染対策を行っていく時期に来ていると思う。

Ｑ：報道では外国ではマスクを外しているところが多く見受けられます。今後、多くの外国人の方が日本に来られると思いますが、不安に思います。先生は、その点をどうお考えになりますか。

Ａ：日本では共通の経験、文化を持っているので対応しやすい。今後、外国人の入国許可数が増えるにつれて、日本の新型コロナウイルス感染症対策の習慣が分からない人が出てくるかもしれないので、やり方の工夫が必要だ。空港で分かりやすく周知する等、日本の文化・習慣を分かってもらえるような情報発信をしていくことが行政としても重要になる。

Ｑ：大田区は空の玄関口として、今後も新たな感染症が入ってくることが心配されます。今後、そうした新しい感染症に私たちはどう対応して生活していくべきでしょうか。

Ａ：まさに今回の講演の開催目的である。病原体を知り、感染ルートを考え、冷静に対応することで、効果的に抑えることが出来る。このような企画を定期的に実施することで、区民と共に感染症対策に取り組む区になれると思う。私達も協力していきたい。

Ｑ：世界では、新型コロナの薬（特効薬）は開発されているのでしょうか。

Ａ：重症化を防ぐ飲み薬が開発されている。日本の企業でも、さらに効果が高いと考えられている薬の開発を申請している。近いうちに承認されて、我々が使えるようになってくると、２類感染症から５類感染症になることも考えられる。５類感染症になれ

ば、インフルエンザと似た対応が取れるようになるので、そこまでくれば、収束が見えてくると思う。

Ｑ：感染対策について外国との違いはあるのでしょうか。
（マスク、手洗い、三密、アルコール消毒）

Ａ：外国では感染者数・死者数が多い時に厳しい対策をして一気に数を減らしているが、効果が見えて一旦状況が落ち着くと、対策も緩めてしまうようだ。その後再び感染者数が増加する様子を見ていると、一度収まったからと言って、急激に対策を止めることはしない方が良いと思う。用心深く状況を見ながら、段階的に規制緩和することが大事だ。日本では、マスクについても、一気にマスクを外してよいということはせず、リスクの高いところではマスクをし、リスクの低いところではマスクをはずしてもよい、という判断になる。このようなことが日本の戦略である。